

2018-08-17

遺伝子組換えミラクリントマトの栽培試験を開始しました。

2018年6月8日に第一種使用の承認を得た「ミラクリン産生トマト (MIR, *Solanum lycopersicum* L.) (5B)」(承認番号 18-46P-0001) の栽培試験を、第一種使用規程に基づき、筑波大学 T-PIRC 遺伝子実験センターの隔離ほ場 (模擬的環境試験圃場Ⅳ) で開始しました。

1. 生育初期の高温耐性試験

目的：組換えトマトと非組換えトマトの生育初期の高温下での生育特性を比較調査する。

材料：ミラクリン産生トマト (5B) と宿主である非組換えトマト (品種 Moneymaker)。

栽培・調査方法：遺伝子実験センター内の栽培室で約2週間育苗した苗を密閉容器に入れて隔離ほ場Ⅳに設置したビニールハウスに搬入し、ハウス内の架台で栽培 (写真左)。1週間おきに草丈および茎長を測定。

調査期間：2018年8月17日開始、2018年9月7日終了

2. 形態および生育特性に関する調査

目的：組換えトマトと非組換えトマトの花の形態、花色等に関する調査および植物体の形態や生育特性に関して比較調査する。

材料：ミラクリン産生トマト (5B) と宿主である非組換えトマト (品種 Moneymaker)。

栽培方法：2018年9月5日、遺伝子実験センター内の栽培室で約1カ月育苗した苗を密閉容器に入れて隔離ほ場Ⅳに設置したビニールハウス内に搬入した。苗を6Lポットに移植し、栽培を開始した (写真右)。

調査項目：花色の安定性、花序の数、花序の型、葉の大きさ、花の大きさ、果実の形、果実重、花粉充実度、花粉稔性、生育特性 (草勢など) 等



図. 圃場での栽培の様子

左：生育初期の高温耐性試験 (撮影日 8月17日)

右：形態および生育特性に関する調査 (撮影日 9月5日)

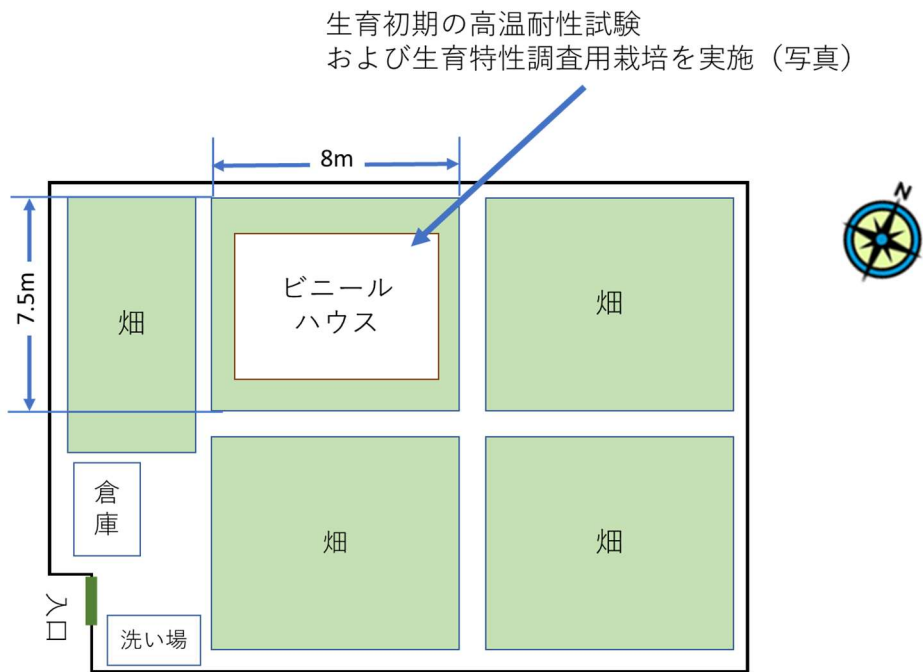


図. 隔離ほ場（模擬的環境試験圃場IV）の区画配置と使用区画